（別紙4）　　平成　24　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 3391000019 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人　愛誠会 | | |
| 事業所名 | グループホーム　心 | | |
| 所在地 | 岡山県新見市唐松1749－2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年2月21日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | p://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3391000019-00&PrefCd=33&VersionCd |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　ライフサポート |
| 所在地 | 岡山市北区南方2丁目13－1　県総合福祉・ボランティア・NPO・会館 |
| 訪問調査日 | 平成25年3月4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域・家族とのつながりを大切にしながら、ご本人の主体性を尊重して地域の行事への参加等自由な外出を支援している。職員・利用者の方というかきねをとりはらい、同じ空間を共有する生活者としての視点を忘れず、日々の関わりの中で、同じ景色・季節を感じながら、真剣に向き合う中でご利用者の心の声・思いを引き出し支援につなげている。又、ご家族の方とのコミュニケーションについても、小さな変化等細かい情報を共有しながら、日頃言われないご家族の方へのご本人の想いを職員が伝え、ご家族の方との関係性が継続できるようにし、又ご本人を中心に一緒に共に考え・支え合うという関係づくりを行っている。どのような認知症症状があっても、その人の人生に思いを寄せ、自立支援、生きがいを創りだし広がりのあるケアを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

この法人の理念としての人材育成や職員の定着化を図るため、子育て世代、特に女性が働きやすい労働条件・環境が整っていて、利用者へのより良いケアに大きく貢献している。また、法人内の各サービスで研究発表を行い、今年で3回目を迎えた。「グループホーム心」の今年のテーマは“うつ傾向にあるアルツハイマー型認知症の方のケア実践～心穏やかな生活に向けて～”であり、介護抵抗、介護拒否のある利用者にどう向き合い、関わっていくか、相手の心に寄り添いながら取り組んだ。職員が変わると利用者にも変化があり、笑顔が増えて未来に向けての会話も出てくる等、信頼関係を築くことが大きな成果に繋がった。「当たり前の会話を心がけ、利用者の感性について行ける職員を育てたい」3年目を迎えた管理者は熱い抱負を語ってくれた。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全体で理念を共有し、ケア方針・方向性を話し合う上で、必ず共通認識として、位置づけ具体的なケアの話しにつなげている。 | 「職員と利用者の垣根を取り除く」「職員もここで生活しているという視点を忘れない」「当たり前の会話を心がける」等を目標に掲げ、季節の風や景色の移り変わりを感じながら、職員は利用者の思いに寄り添うケアを実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の各種団体と様々な形で交流が続いており、施設自体が地域住民の憩いの場、研修の場、イベントの場となっている。又、避難場所として地域に認識されている。 | 法人としての交流は長く深いが、今年は老人会、地域の人、ボランティアの人達が訪問して「けんびき焼き」やいなり寿司を利用者と一緒に作ったり、家族が先生の絵手紙教室を開いて友人が参加してくれる等、ホーム独自の交流も広がっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症ケア等取り組みについて、地域住民やご家族に対して実践報告会を、年2回開催し、ケア内容を公開するとともに、認知症に対する理解やケア方法を還元している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | プライバシーに配慮し具体的な事例報告を行うことで、よりグループホームについて知って頂く機会に繋がり、又質問・意見等をうけ活発な意見交換がされ、サービスの向上に取り組んでいる。 | 市の担当者、地域の住民、家族等の参加がある。認知症サポーター養成講座を受けた家族から「ボランティアをしたくても何をしてよいか分からない人もいるので、理解者から支援者になれるようなカリキュラムが必要なのでは？」との意見もある等、活発な意見交換がみられた。 | 運営推進会議で例えば、「夜間等の安全対策に居室にセンサーを取り付けているケース」を話し合い、家族の意見を聞いてみる等、ホームの運営に関わる議題を積極的に提案してみたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進委員会に毎回、新見市高齢者支援課職員の派遣を要請し、会議に出席してもらい、各委員との情報共有や情報交換、地域との連携状況、ケア状況について市としての意見を求めている。 | 家族からの要望を受け、市町村と話し合いをしている。また、市町村の担当者は「認知症高齢者の施策」の資料持参で出席し、会議の中で意見交換して地域と行政との連携を密にしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の方が外出しそうな様子を察知したら、職員間で連携を図り、さりげなく一緒についていく等安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう支援している。 | 身体拘束委員会もあり、職員には周知徹底していて、ホームでの身体拘束はない。また、玄関にチャイムや居室にセンサーを取り付け、安全対策をし、利用者が外に出ようとする時はさりげなく見守り支援する体制作りをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 研修の中で高齢者虐待防止法などについて学び、理解を深めている。又、言葉遣いについてもスタッフ間でお互い気を付け注意を払っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用された方が入所されており、新人職員も入ってきたため、再度勉強会を開き職員が理解できるように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は法人の職員と管理者が説明を行っている。利用者の側の立場に立ち、ていねいに説明を行いながら、そこで疑問・不安等ある場合はお聞きし納得して頂けるよう説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 細かい事でも駒目に連絡し、面会時には日頃の様子をお伝えし、気軽に会いに来ていただいたり要望等遠慮なく言って頂けるような関係作りに努め、要望はケアに反映させている。 | 昨年、より良いサービスの質の向上と家族間の交流及び地域との連携を図ることを目的とした家族アンケートを実施し、それを基に改善策を話し合った。また、家族には個別のたよりで情報提供している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務改善委員会、両立支援委員会において協議され提案された意見や改善点について、全体に周知すると共に、幹部会議に提案し規則への反映等行っている。 | 子育て中の職員を対象にした両立委員会のメンバーは現在10人。特養の敷地内にある託児所で生後2ヶ月から預かってもらえる等、法人の理念として働きやすい環境を協議、提案している。また、管理者も意見･要望をホームの運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎年、職場内研修を年2回30回講座程度企画し、実地している。さらにキャリアパス制度を就業規則において定め、職階と問われる能力、必要な資格及び給与への反映等が明確に示されている。子育てしやすい職場環境として、ワーク・ライフ・バランスに取り組 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 初級、中級、上級別に研修を行い、それぞれのレベルに応じた指導・教育を行うとともに、新人職員には一年間を限定にプリセプタ―を置き、新人職員の定着と育成に当たっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設外研修に積極的に参加させると共に、法人内の他施設研修にも参加させ、モチベーションとケア内容の向上を推進している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面接でご自宅に伺い、ご本人が生活されておられる環境・生活状況・生活歴等把握できるように努め、ご本人の気持ちを受け止め信頼関係を図って頂けるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の段階でご自宅に伺ったり、こちらに訪問して頂く機会を作り、施設の雰囲気を感じて頂きながら、今までの経緯・お気持ちをゆっくりお聞きし想いに応えられるよう支援に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時状況等を確認しながら、利用開始までに何度か相談を繰り返す機会を作りながら、必要なサービスにつなげていけるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員はご利用者の方と共に生活しているという視点に立ち、日常生活の中の当たり前の会話の中で季節を感じたり感情を分かち合えるような場面作りを行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の日常の様子・変化を細かく報告しながら、同時にご家族からも情報を頂き、その思いを十分に把握して共同して、ケアに当たるよう協力関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人・知人との行き来を支援し、また電話やはがきでの連絡をとりもつなど、継続的な交流が出来るよう働きかけている。 | 家に帰りたい人には職員も同行し、家族と一緒に過ごし、以前飼っていたネコと触れ合ったり、近所の人とも楽しい時間を過ごした。また、特養入所の友人との交流も支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性を全職員が把握し、潤滑油の役目を果たして、利用者同士楽しく過ごし共に支え合う関係作りができるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された方についても生活が継続できるようにこれまでの生活・支援内容・注意点等細かく情報提供している。又、必要に応じ連絡して頂けるよう連携に努めている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わり合いの中で、ご本人の表情・言葉・しぐさなどの中から、思いや希望・意向をくみ取り把握できるように努めている。 | 担当の職員は、利用者の発した言葉や表情等の変化をケア記録に残すようにしている。「雀が庭に来たね」「梅の花が咲いたね」等、日常のさりげない会話の中で利用者の感性を大切にし、その目線で共に暮らしながら、発した言葉の内側を見ようと努力している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴を知る事の意味や重要性をご家族や知人の方に理解して頂きながら、協力して頂きより深い理解をしケアに活かすために情報を収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中でアセスメントを行い、職員と一緒にやってみる場面を作りながら出来る事に着目しながら、ご利用者一人一人の生活リズムが把握できるように努めている。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族と連絡を密にし、日々の関わり合いの中からご家族・ご本人との意見・要望を把握し、その事を含めいろんな方面からの意見を把握した上で介護計画を作成している。 | 半年ごとにプランの見直しを行い、担当の職員と共にカンファレンスをしながら作成している。また、本人の楽しみや喜びを反映させようと、日常で交わされる会話の中から希望や思いを把握してプランに活かしている。 | 日頃の利用者の発語や思い・表情等を「ケア記録引用綴り」に記録しているが、職員間で話し合いこのシートの活用の仕方を工夫をすると、今以上にケアプランに反映できると思う。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 身体状況・日頃のご様子のほか、ご本人の気持ちがおしはかれるような言葉やエピソード等を個別に記録し、職員全員が情報の共有を図ると共に介護計画の見直しに努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人・ご家族の要望・状況に応じて、柔軟に対応して支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源を把握し、利用者が柔軟に活用でき、これまでと変わらず地域生活者として生活が継続出来るように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医へ毎月通院介助を行い受診している。ご家族の方が同行して下さる方が少ないため、小さな変化等細かい様子についてもその都度連絡している。 | 内科には毎月1回、認知症専門医には家族の協力が得られる人は毎月1回、整形外科･眼科その他の科についても適宜、通院介助している。また、緊急の場合や家族の協力が難しい人には管理者が付き添って受診している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護士で判断できないような場合、唐松荘の看護師に相談し助言を受けることがある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、本人の状況を医療機関に提供し、入院中は看護師･家族との情報交換を密に行いながら、退院後の支援がスムーズに行えるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | まだ該当者がいないが、ターミナルケアに関する指針に則り、可能な限り支援する方針がある。 | 各種の受け皿を多く持つ法人内のホームなので、希望があれば対応する準備はあるが、今のところ看取りをした例はない。今後は、重度化の範囲や終末期のケア等、協力医やかかりつけ医との連携を図りながら、支援していこうとしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 社内研修や消防署の協力を得て救急手当てや蘇生法の研修を実施し、事故発生時に対応できるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月特養と合同による避難の実践訓練や非常用機器の取り扱い、夜間想定の訓練などを行っている。又、河川が氾濫した事を想定しての特養との全体の避難訓練も実地している。 | 特養が毎月1回避難訓練を実施する時、ホーム内でも連動して避難ベルが鳴る仕組みである。今年は近くの川が氾濫、ダムを放流した場合等の水害を想定して避難訓練を実施した。その場合の避難場所は山の上の土橋地区にある小規模多機能ホームになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その都度本人の意思を尊重し思いを大切にし、状況に応じた声掛け・対応について配慮している。 | リビングではソファーで休んでいる人、組紐を編んでいる人、オルガンを弾いている人、エプロン姿で調理のお手伝いをしている人がいる他、居室でのんびり寛いでいる人もいる等、皆、思い思いに自由に過ごしていて、一人ひとりが尊重されている空気が好ましい。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者一人一人の状態に合わせて、本人が選びやすいように複数の選択肢を提供して、自己決定できるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人一人のその日の体調・気分を把握し、本人の希望を尋ねたりしながら、生活のペースを大切にしてご本人の意思を尊重し支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしさが保てるように、本人の好みや意向を大切にし把握しながら支援している。又、女性の方ばかりであるため、外出時お化粧をサポートし、おしゃれが楽しめるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人一人の能力に応じて、調理・盛り付け・片付け等一緒にして頂いている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事ができるよう雰囲気作りにも大切にしている。 | 寿司桶にいなり寿司の具を作ったり、長ネギの選別をしたり、楽しくおしゃべりしながら、出来る人には手伝ってもらっている。また、ほとんどの人は、楽しく会話しながら仲の良い者同士、職員も一緒に炬燵、テーブル等好きな場所で食事をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士の献立をもとに栄養バランスは確保できている。一人一人の一日全体の食事・水分・摂取量をチェックし、体調の確認・管理を行い利用者の方の状態に合わせて支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者の方の状態に合わせて、できる方には声掛け・見守りをし、できない方には職員が口腔ケアを行い清潔の保持に努めている。又、朝・晩はイソジンガーグルでのうがいを徹底し行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレでの排泄を可能にするために、本人の排泄パターンを把握して、さりげなく誘導したり、表情・動作から察知して声掛けを行う事により、トイレで排泄できるように支援している。 | 歩行介助が難しく夜間だけオムツにしている人にも、昼間はトイレに誘導し自立支援に繋げている。また、各居室にトイレがあるので、利用者は安心して自室で排泄、着替えができる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自然排便を促すために、軽い体操を促したり水分補給の徹底を行い、又料理も繊維質の多い食材を提供しながら取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ご利用者のその日の希望等お聴きし体調に配慮し、個々に合わせた入浴方法で入って頂いている。入浴中には、一緒に歌を歌ったりリラックスできるよう雰囲気作りを行い配慮している。 | 広い浴室ではチェアー浴等、利用者の身体状況や体調に合わせて入浴できるようになっており、安心して入れるように誘導している。また、浴室から大きな歌声が聞こえてきて、楽しく入浴している様子が窺えた。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を促し、生活リズムが保てるように努めている。又、一人一人の体調・希望等配慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の薬の処方・副作用の説明をファイルに保管して職員がいつでも確認できるようにしている。薬に変更があった場合、連絡簿に記入して状態の観察に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれの得意分野で能力が発揮できるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。ご本人の趣味等活かし生活の中で楽しみが持てるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の利用者の方の希望を反映し、散歩や買い物等出かけたり、季節を感じて頂けるような外出支援を行っている。 | お菓子や日用雑貨を売っている特養にある「かどや」へ買い物に行ったり、地域の文化展や定期演奏会に職員と数人で出かける等、日頃から外出支援をしている。また、特養と合同の夏祭りや各種イベントにも参加している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族の方よりお金を預かり普段事業所が管理している方でも、外出時買物等の時は財布をお渡し自分で払って頂けるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や友人に電話をかけたり手紙を書く機会を設けたり等こちらから働きかけを行いやり取りができるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングの壁には各月ごとにご利用者の方と一緒に作った季節が感じられる作品を飾りつけ、みなさんで楽しめる空間となっている。又、音楽を流し心休まる雰囲気作りを心掛けている。 | ホームは開放的な設計になっており、リビングからの景色も山々の展望が広がり居心地良い空間となっている。また、利用者手作りのお雛様の作品が飾られ、季節感も漂っている。庭にはプランター植えの花や野菜が見られ、目でも楽しめたり、活動の場ともなっている。 | 気候の良い時節には例えば、庭でお茶を楽しんだり、ゲームをしたり、家庭菜園を作る等、アクティビティとしての庭の活用方法を職員間で話し合ってみるのもよいと思う。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 日当たりのよい窓際にソファーや椅子を置き、気の合った人たちがくつろいで過ごせるスペースを作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人やご家族の方と話しをしながら、思い出の品・なじみの物等持ちこんで頂き、居心地のよい空間作りができるようにしている。 | 採光を配慮した明るく広い居室には、トイレや洗面所が設置してある。ソファーやタンスは使い慣れた物を持ち込み、位牌やご主人の写真を置いている人もいる。また、家族に利用者の人生の思い出のアルバムを持ってきていただく様、お願いしているところである。、 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の方の身体状況に合わせ、常に利用者の方の視点にたち、危険な要因はないかなど安全面に配慮して環境整備を行っている。 | | |